

令和8年度7月集会 校長講話

令和8年7月17日

本日、私からは、「経験を積み、経験を次につなげる夏に」という内容でお話します。

今年に入ってから、世界では、イラン戦争が起こったり、国内では、みなさんと同じ高校生が犠牲となった事故が起こったりするなど、大変痛ましく、悲しい出来事が起こりました。

あらためて、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げたいと思います。

一方で、明るい話題もありました。

私が最も印象に残っている出来事は、サッカーワールドカップで決勝トーナメント進出を果たしたことです。

残念ながら、決勝トーナメントでは、初戦でブラジルに逆転され、敗れてしまいましたが、試合の結果以上に、私の心が震えたのは、現地に応援に行かれたサポーターのみなさんの行動でした。

日本のサポーターのみなさんは、試合後、スタジアムに残ってごみを拾い、きれいにしてから、スタジアムを出ました。

こうした行動は、ワールドカップのたびに繰り返されてきたのですが、今回も、そうした日本サポーターの姿がSNSで拡散され、世界から称賛されました。

そして、その結果、ついには他国のサポーターも、ごみを拾うようになりました。試合の勝敗だけでなく、敗れてもなお会場をきれいにするために他人が残したごみを拾い続けた行動が、世界を動かしたのだ、と思います。



生成AI (Copilot) による作成

こうした行動は、普段私たちが大切にしている、

「帰るときは、来たときよりも美しく」

「使った場所は、使う前よりきれいに」

「行動は、他人の迷惑にならないように」

こういった価値観を実践するものだと思います。



生成AI (Copilot) による作成

そして、日本のサポーターがそうした行動をとれるのは、私たちが日々を過ごす学校の中で、そうした価値観を育み、培ってきたからだと思います。

朝登校して、教科の学習をし、掃除をし、部活動に励み、同級生や先輩・後輩と対話し、あるいは自分の興味・関心のあることに取り組む…こうした日々の繰り返しが、世界が称賛するソフトパワーにつながっています。

これからも、私たちは、こうした価値観を行動で示せる実践者として、日々を過ごしていきましょう。

今、私は、今年起こったできごとを振り返り、私なりに感じたことをみなさんに伝えました。

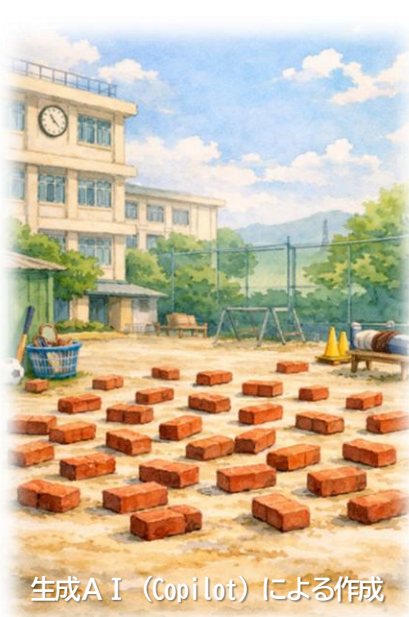
同じように、みなさんもこの4月からの今日までの間に、みなさん自身が経験したことを振り返ったうえで、

それをどう感じたか、

その経験から何を学びとったのか、

これからの役に立てることができるのか、

そうしたことを整理する時間を持つてほしいと思います。



生成AI (Copilot) による作成

たとえ話をします。

1日の経験を、1つのレンガに見立てて考えます。

明日から始まる夏休みは約40日。なので、レンガは40個。

これらが校庭にあったとして、重ねずに、そのまま地面に置いたままなら、すべてのレンガの高さは1つ分の高さしかありません。そこからは、それほど遠くまで見わたすことはできないでしょう。

しかし、意識してそのレンガを上積み重ねたとしたら、その頂上からは、遥か遠くまで見渡せるようになるはずです。

遙か遠くまで見渡せるようになる、とはどういうことか。

それは、将来の自分自身が歩むべき方向が見える、ということです。

一日の経験を、ただ「今日はこんなことがあった」で終わらせることなく、「今日は、こういうことをしてみたがうまくできなかった。だから、明日は違う方法で挑戦してみよう」とか、「今日できたなら、明日もできるはずだ」というように、明日からの40日、「経験を生かすための工夫」を意識して過ごすことで、夏休みを意義あるものとし、ひいては、みなさんの成長につながる、と思います。



生成A I (Copilot) による作成

みなさん。

この長い夏休みの間の日々の経験を、積み重ねますか？それとも置いたままにしますか？

私は、みなさん一人ひとりが、自分の可能性を信じ、少しずつでも前に進んでいける学校をつくりたいと思っています。

夏休みは、人と比べる40日ではありません。昨日までの自分より、一歩でも成長する40日です。

「経験を積み、経験を次につなげる夏に」

40日後、みなさん一人ひとりが積み上げた『レンガ』を見ることを、心から楽しみにしています。